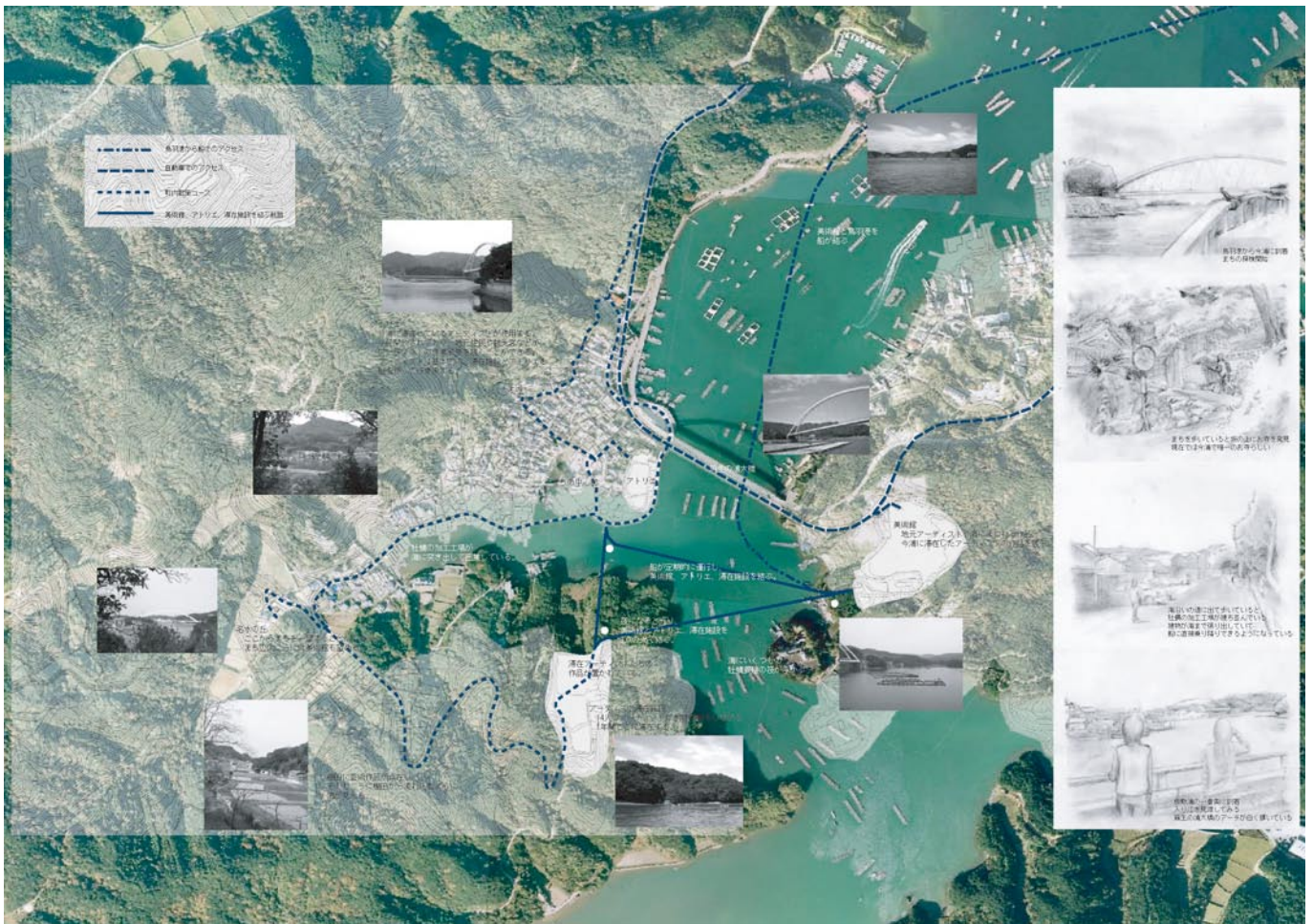


元始、入江は街であった





三重県鳥羽市今浦町、
美しい海がどの場所からも見渡せるこのまちで、
磯の香りと明るい太陽の下、
まちの人々は家族のように仲良く暮らしている。

かつて
日本中のまちも今浦と同じように海岸に沿ってできていた。
海はまちとまちを結ぶ道路であり、
仕事場であり、
交流の場であった。

道路によってまちとまちが結ばれた今、
このまちに残っているような風景を見ることはなくなった。
海によってつながっていたあの頃のことを忘れないように
芸術村の3つの機能を分解し、離して、船を行き交わせよう。

車社会に暮らす私達は、忘れてけている。
元始、入江はまちであったことを。

敷地

鳥羽市
今浦

今浦は人口 400、
100 世帯に充たない小さな集落である。
そこはリアス地帯の地形にあり、
まるで山が海を包みこんでいるかのようだ。
今浦がもっとも美しく見える場所は集落の西側、
両の奥にある名水の丘である。
ここからは鮎敷漁港とそれを囲むように設置する集落が
限なく見える。
集落の向こうには黒生の雄大な山が見え、
その白い峰をさきむように山が連なっている。

海には牡蠣や海苔の養殖の筏が浮かび、
そこで作業をする人々や漁船に乗った漁師たちの
生き生きとした姿を望むことができる。

まちの人々はここのように穏やかな気質で、
農業や漁業をしながら暮らしている。

1. 今浦 × 芸術

今浦町に芸術村ができる。
様々な人々の生活に変化が起こる。

今浦町に芸術村をつくる。
アーティストは大自然に囲まれて創作活動を行うことができる。
暖かいまちの人々とふれあうこともできるだろう。

今浦町に芸術村をつくる。
まちの人々は今までの暮らしに芸術を加えることができる。
散歩をするだけでアートに触れることができる。
1つ趣味が増えるかもしれない。

今浦町に芸術村をつくる。
観光客は美しい風景に出会うことができる。
そんな中で芸術を鑑賞し創作活動を体験することができる。

2. 創作の風、芸術の波

アトリエで生まれた創作の風は
美術館で芸術の波をおこし、
その波は今浦から鳥羽へ、鳥羽から三重へ、
三重から日本へ伝わっていく。

3. 海の道の再興

今浦では現在でも海中心の生活を見ることができ、
現代では忘れられている海の道を、
芸術村の施設を3箇所に分けることによって再興する。

3施設を船によって結ぶ。
鳥羽港から船でアクセスすることも可能にする。
船で移動することで
海の道を観光客やアーティストにも体験させる。
アーティストにとってはまちの人々と同様に
海の道が日常となるだろう。

アーティスト

まちの人々

観光客

生活の動線

芸術家と交流する

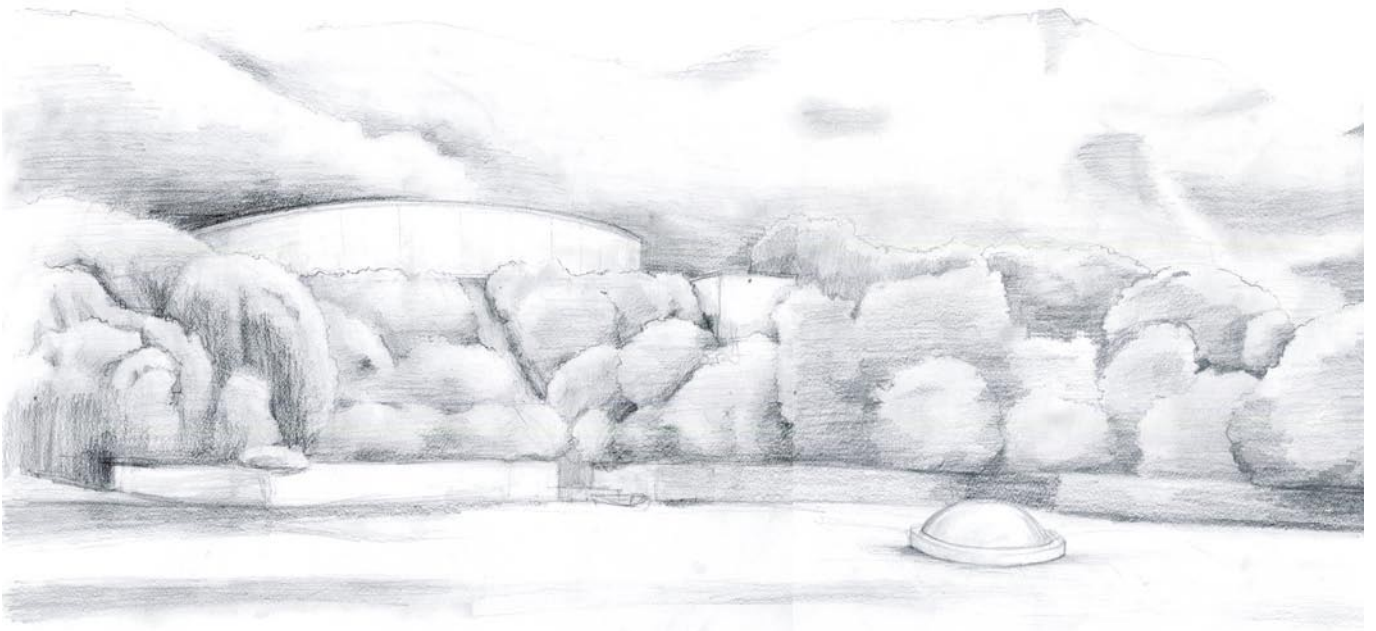
鳥羽港からアクセス

創作する

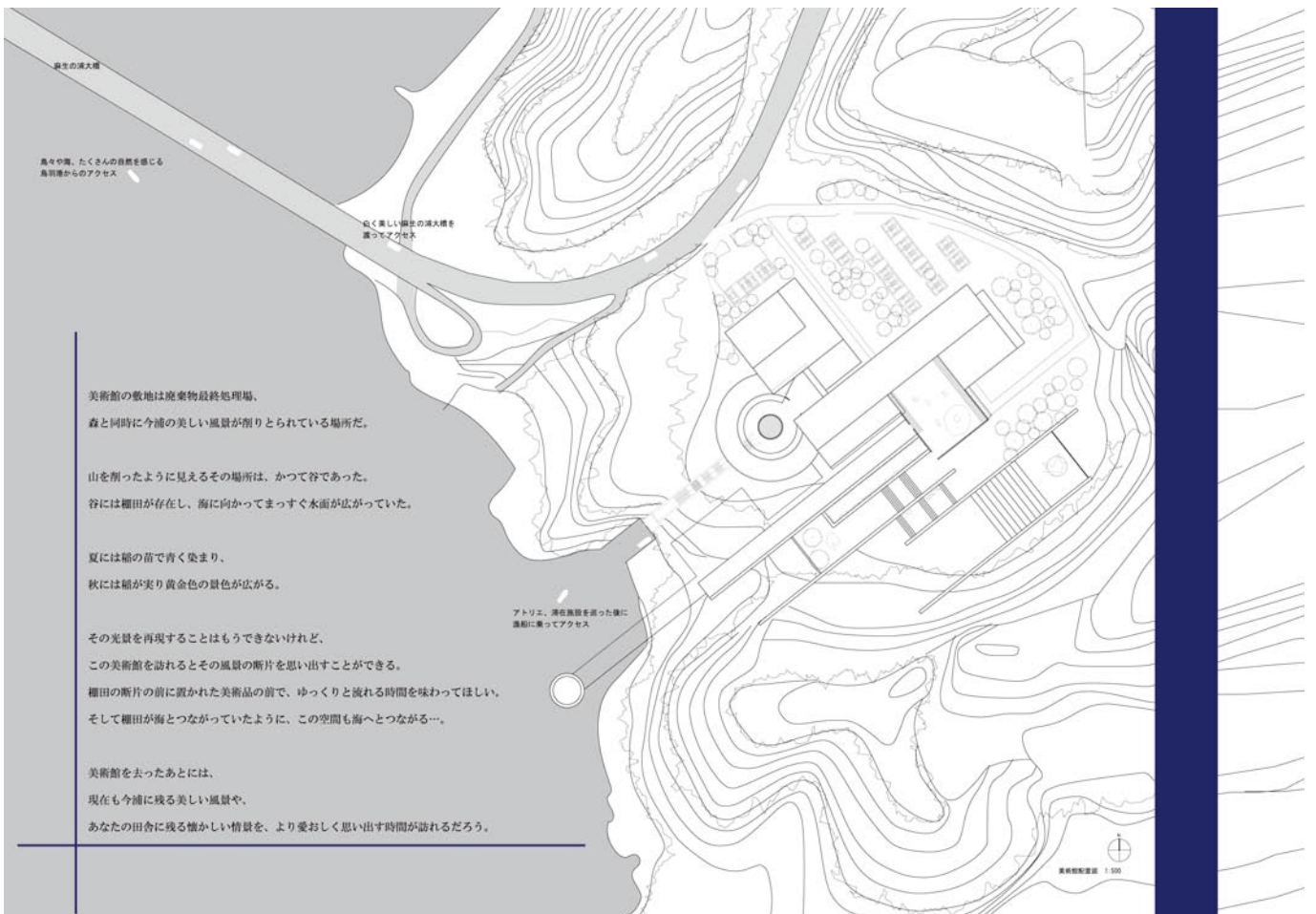
展示する

暮らす

ほりおこして 伝える 芸術の波



鳥羽市今浦地区芸術村計画 美術館



芸術村計画における美術館の役割

1. 展示



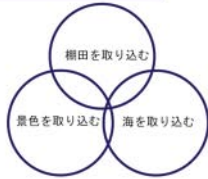
今浦町芸術村計画では、芸術村にアーティストが滞在して芸術作品を制作する。アーティストによって制作する作品は様々で、彫刻、陶芸、絵、写真、文学などが予定されている。この美術館にはアーティストが制作した作品を展示する場所である。また、村に滞在しているアーティストの作品のみでなく、外部のアーティストの作品も展示される。

2. 交流



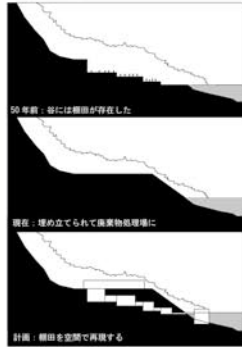
アーティストは今浦町外部から作品を制作するためにやってくる。まちの人々との接点を生むため、美術館をアーティストとまちの人との交流の場とする。また、まちの人もアーティストと一緒に作品を制作する体験などをし、生活の中にアートという分野をプラスする。そしてまちの人の人生もさらに豊かなものになってゆく。さらに、美術館にとっても美術館はアーティストとの交流の場となり、作品の制作体験が出来る。

設計キーワード



棚田、景色、海の3つのキーワードを基に設計を行う。それぞれはこの場所特有のもので、それを建物の空間体験として味あえるようにする。

1. 隠れていた棚田

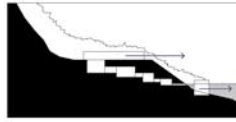


現在廃棄物の最終処分場となっている計画予定地は、山が崩れ、谷が埋められて平地になっている。50年前谷だった場所には棚田が存在していた。谷の両側は海に向かってまっすぐに伸びてゆく水田である。田植えの時期には水面が海へつながり水面に山の緑が反射する風景を、収穫の時期には黄金色の稲穂が海へむかって広がる風景を眺めることができていた。そんな棚田を、空間によって再現する。

2. 今浦の美しい景色



今浦町の景色は360度どこを見渡しても美しい。リアス式海岸独特の地形で、海を挟んですぐ対岸の山をみることができる。太陽の光を反射して輝く水面、緑のグラデーションがかけられたような山々。この景色を建物の中に取り込む。



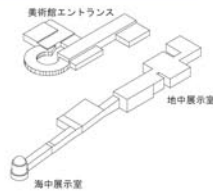
地上エントランスからは今浦の集落と海と山の美しい景色が広がり、地中展示室では棚田のような階段状につながる展示室の空間が、海中展示室へたどり着くと暗くて静かで美しい海中の景色が広がる。

3. 青く輝く海



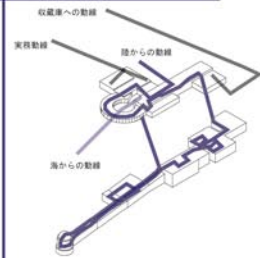
青く輝く海はアーティスト滞在施設とアトリエ、美術館をつないでいる。同時にこのまちの風景の主役でもある。まちの人々にとって当たり前の景色になっている海を、違う角度から観察することができる空間をつくる。

美術館の構成



今浦の美しい景色を内部空間に取り込むガラスリングを持った美術館エントランス。棚田を建築空間によって再現した地中展示室。海底の空間を美術館として体験できる海中展示室。景色、棚田、海、各空間でそれぞれのものを取り込んでいる。

動線計画



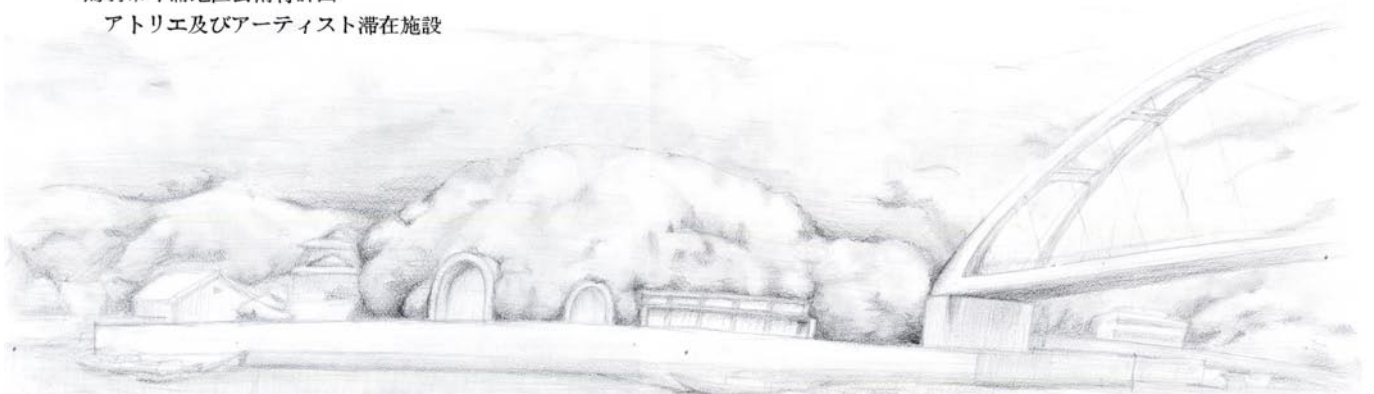
陸からの来館者
地上エントランスを一周回った後、地下へ降りていく。スロープで地下展示室を降りた後、海中展示室へ。門をスロープで一周し、先に通った道を下に見下ろしながら地上へ帰っていく。

海からの来館者
船を下りた後ガラスのリングの下を通過してエントランスへ向かう。振り返ると今浦の海と山が広がる風景を見渡せる。



うめもどして 生まれる 創作の風

鳥羽市今浦地区芸術村計画 アトリエ及びアーティスト滞在施設



アトリエ

○地形

地元の人々からは隠れ山と呼ばれる山の中にある。この山の上にはかつて城があり、新橋時代にこの山をつくられたとまわられている。現在は木々に覆われている。この中にアトリエを入れる。

○風景

アーティストが創作活動に集中するための外に閉じる。北は入るが、風景は取り込まない。

○風情

風景の中にあり、風景の風景にならざる。人々に開かれてはいる。

アーティスト滞在施設

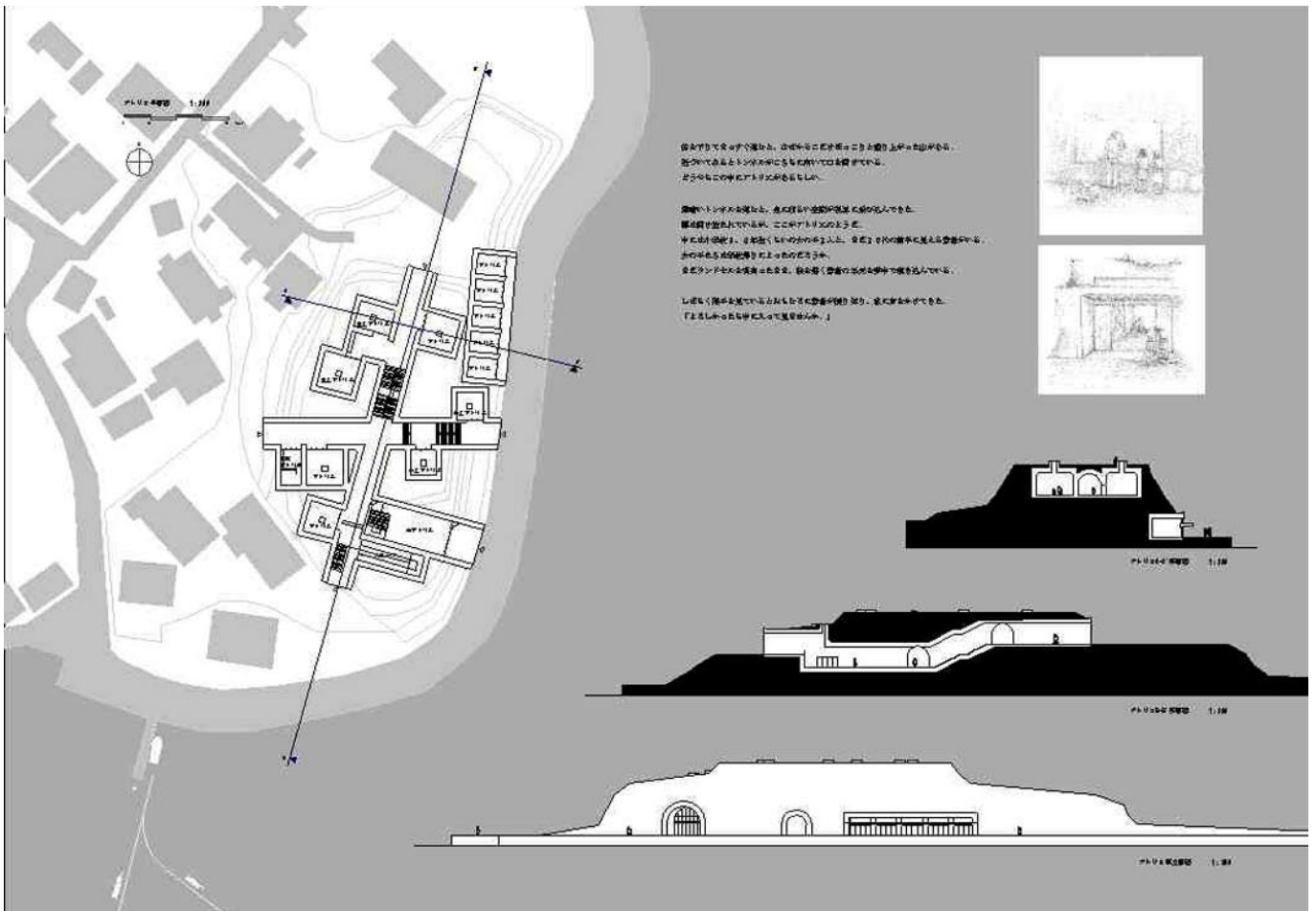
リアス独特の地形にあり、谷の部分にある。

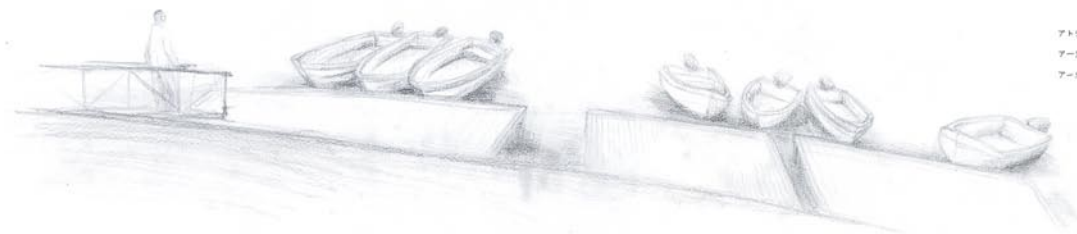
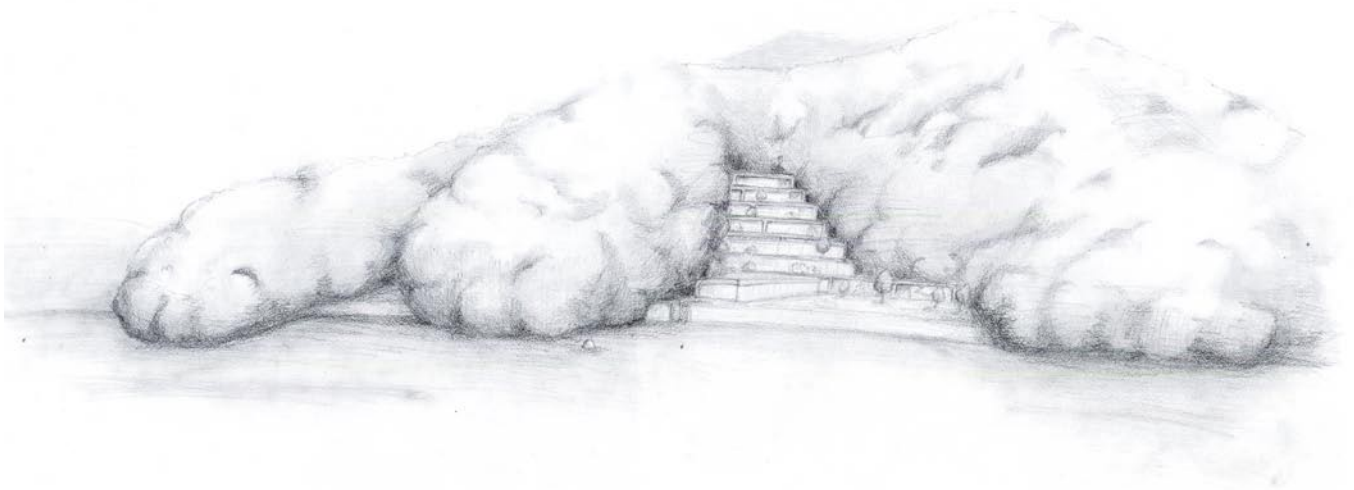
ここにはかつて修験道跡があり、そのときに地形を壊滅し取り取られた跡がある。これを建物で補修し、昔の地形に直す。

海、森林、山という今風の美しい風景を具現せる場所にある。この風景を積極的に取り込む。

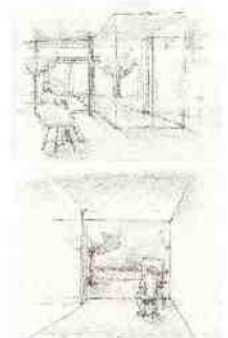
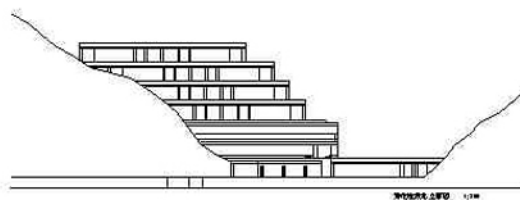
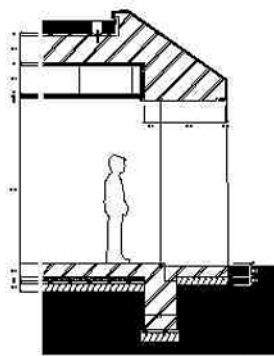
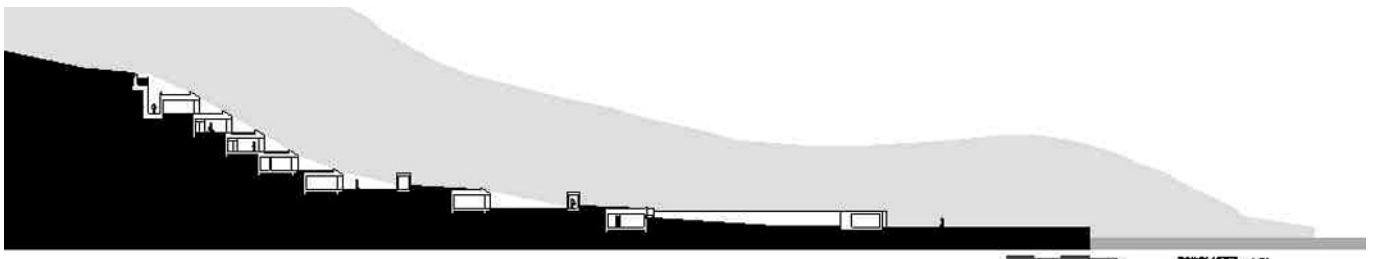
集落の中心からは隔をはさんで別荘にあり、集落とは一帯の距離を置き、見渡せる。

アトリエは集落の東側に位置している。この場所にはかつて城があった。現在、城が残っていないが山は残っており、地元の人々からは隠れ山と呼ばれている。この山の中にアトリエ群はあり、B→集落的なものが並べられている。





アトリスの近く、美原の中心部にある制高点から
アーティスト滞在施設を望む。
アーティストはこの階段から、舟や舟でアトリスに通う。



ギャラリーも出るのだがそれは別荘がもっていた。
少し増やせばいいかもしれないが、
それはそれでいいと思う。
各建築の間にあつたのはアトリスのローソクの上は、半壊のものもあつた。
折れた柱のりょうはあつたもののあつた。
よく見るとアトリスもあつたときも各建築の間にあつたものもあつた。
再建時の設計もあつたときもあつた。
半壊の建物より新しくあつたが、新しくあつたものもあつた。

新しくあつたものがあつた。
新しくあつたものがあつた。

